

第4回 予算編成のあり方に関する検討会

日時：平成21年10月19日（月）16：00～16：45

場所：内閣府本府3階特別会議室

出席者：菅直人国家戦略担当大臣、古川元久国家戦略室長、津村啓介内閣府大臣政務官、野田佳彦財務副大臣、片山善博慶應義塾大学法学部教授、田中秀明一橋大学経済研究所准教授、土居丈朗慶應義塾大学経済学部教授、稲垣光隆財務省主計局次長

1. 論点整理（案）の検討

<意見交換における主な発言>

- 今回は政権交代が秋口になったので、予算編成と行政刷新会議の事業仕分けが一緒に進んでいるが、来年以降は、もっと早い段階で事業仕分けを行い、その結果を踏まえて各省が概算要求をし、それを財務省が査定するという流れが考えられるのではないか。
- 閣僚委員会を中心とした予算編成については、従来のように年末の押し迫った時にだけ閣僚が集まるのではなくて、早い段階で必要があれば何度も集まってやる必要がある。スウェーデンでは、予算を決める閣議は2日間閣僚が合宿をして議論しているそうである。
- 論点整理について、パブリックコメントを求め、広く一般に、現状の予算制度は何が問題か、改善すべき点は何なのか、等を問いかけてはどうか。
- 来年度予算の編成についてはもう走り出しているので、パブリックコメントは23年度以降の課題を中心に求めればよいのではないか。
- 政策達成目標明示制度の導入及び活用について、22年度は、予算編成が終わった後、認められた予算を前提として、後出しの目標設定にならざるを得ないが、23年度以降は、予算と同時に目標を出すべき。従来の長期計画的なものは、予算を獲得するための道具という面があったが、今回は違うということを各省に明確に認識させるべき。
- 論点整理には、予算の編成のプロセスについて、透明化すべき、説明責任を果たすべき、といったことを無機質的に書いてあるが、何のためにやるのか、というミッションが必要である。血税を無駄にしない、効率的な予算編成のためにこう

いうことをやるのだというメッセージを伝えることが必要。

- まずやらなくてはならないのは、各省の概算要求をインターネットで公開すること。財務省の方でも、各省が出してきたものを公開するようお願いしたい。
- 予算の執行状況のインターネット等における開示についても盛り込まれているが、調達等を含めてどのようにお金が使われたのか分かるようになれば、画期的なことである。
- 今回、予算編成のあり方の作業で示されたように、国家戦略室は、アジェンダを設定して、政府内、あるいは国民の議論を喚起し、最終的には、閣僚委員会や閣議で意思決定を図るといった役割を果たすべき。特に省庁横断的な課題については、国家戦略室でリードして政策形成を進めていくべき。
- 現在、予算については、歳出と歳入とそれぞれのパーツを分けて議論しており、国民からすると全体像が見えにくい。歳出、歳入両面を大局的に見る役目を国家戦略室が担うとよいのではないか。
- 歳入歳出のバランスを取るのは最終的には財務省の仕事である。それぞれの役所が本来持っている機能を十全に発揮するように仕向けるというのが国家戦略室の役割ではないか。
- 国家戦略室は、各省庁が仕事をやっていく上でのガイドライン、大きな方向性を示すことが役割と考えている。

2. 結論

以上の議論を受けて、以下の方針が示された。

- 論点整理を本日発表する。
- 論点整理について、23年度以降の課題を中心にパブリックコメントを募集する。
- 本検討会は来年まで休止するが、別途、財政規律・市場の信認確保についての検討会を立ち上げることとし、近く公表する。

(以 上)